

多用途生体情報解析プログラム

BIMUTAS[®] ***II***

操作のワンポイント

ここでは、BIMUTASII-A を操作する上でのワンポイントを紹介します。

**BIMUTASII の基本的な解析の流れについては「基本操作」を、
BIMUTASII を使用した解析の具体例については「解析手順」を参照して下さい。**

<目次>

1) 計測したデータ(「コマンド」メニューによる数値)を表示させるには.....	2-3
2) 計測したデータ(「コマンド」メニューによる数値)をテキスト出力するには.....	2-7
3) 波形をテキスト出力するには.....	2-9
4) 固定幅の範囲を選択するには.....	2-13
5) 横軸単位を変更するには.....	2-15
6) 横軸・縦軸スケールを変更して、波形を大きく見せるには.....	2-16

1) 計測したデータ(「コマンド」メニューによる数値)を表示させるには

<操作の流れ>

↓ ①計測したい波形を表示させ、計測範囲を選択する。

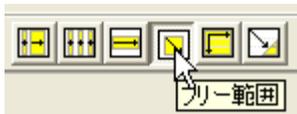
1. 選択範囲を使って、簡便に計測する場合
2. バーカーソルを使って、任意の区間を計測する場合
3. マーク区間を使って、あらかじめ決まっている区間の計測をする場合

②タブ領域を広げ、タブ内のデータを見えるようにする。

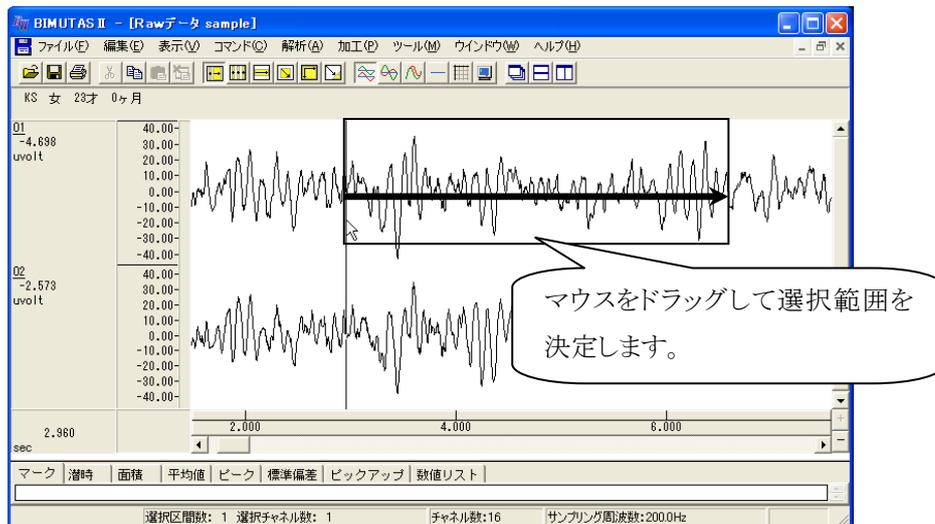
①計測したい波形を表示させ、計測範囲を選択する。

1. 選択範囲を使って、簡便に計測する場合

ツールバーのボタンを押し、データの選択方法を決定します。



必要な区間をマウスでドラッグして、選択範囲を設定します。



「コマンド」メニューの「計測したいメニュー」の「選択範囲」を選択します。



2. バーカーソルを使って、任意の区間を計測する場合

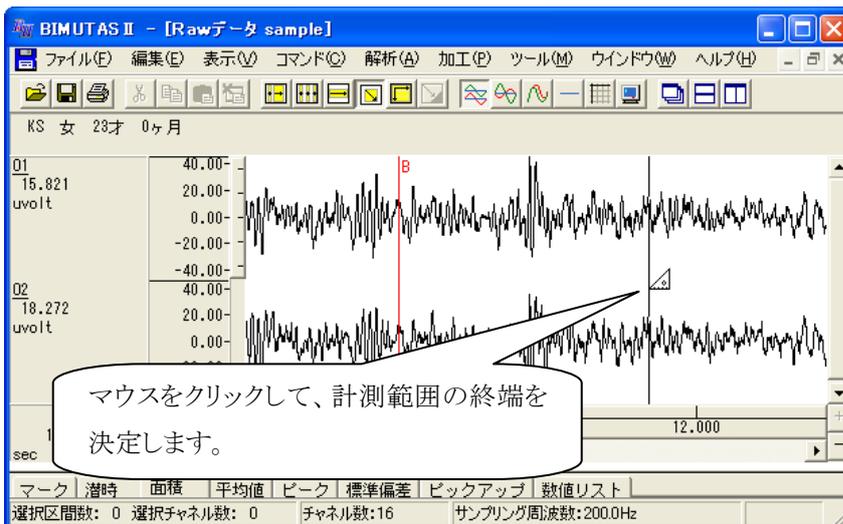
「コマンド」メニューの「計測したいメニュー」の「バーカーソル区間」を選択します。



波形上で、ベースカーソル(1番目の左クリック)を決定します。



波形上で、計測範囲の終端(2番目の左クリック)を決定します。計測範囲の終端は連続して変更することができ、クリックする度にデータがタブに表示されます。



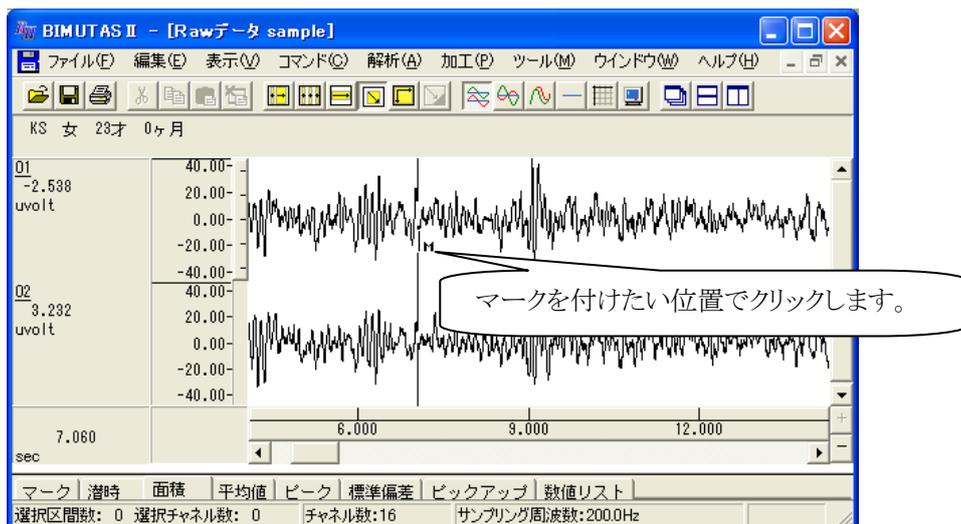
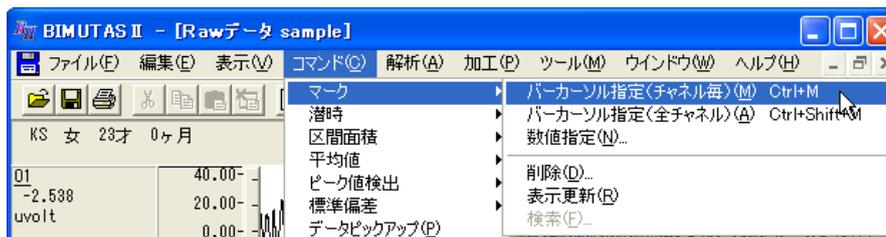
ベースラインを変更するには、波形上で右クリックして「ベースカーソルのクリア」を選びます。その後でベースライン(はじめのクリック)と選択範囲の終端(2度目のクリック)を行います。



3. マーク区間を使って、あらかじめ決まっている区間の計測をする場合

あらかじめ、計測したい範囲にマークをつけます。

例:「コマンド」メニューの「マーク」-「バーカーソル指定(チャンネル毎)」で、マークをつける場合

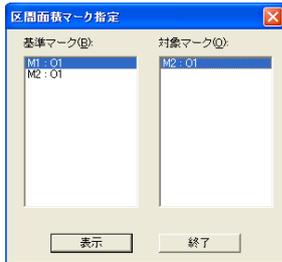


BIMUTASII 操作のワンポイント

「コマンド」メニューの「”計測したいメニュー”」の「マーク区間」を選択します。



基準マークと対象マークを選び、「表示」ボタンを押します。基準マークと対象マークとの間が計測されます。



②タブ領域を広げ、タブ内のデータを見えるようにする。

波形の下にある、タブ領域と波形領域の境目にマウスをあわせませす。その後ドラッグして上に引き上げます。



波形の下にあるタブ領域が表示され、①で操作したデータが表示されていることがわかります。



2) 計測したデータ(「コマンド」メニューによる数値)をテキスト出力するには

<操作の流れ>

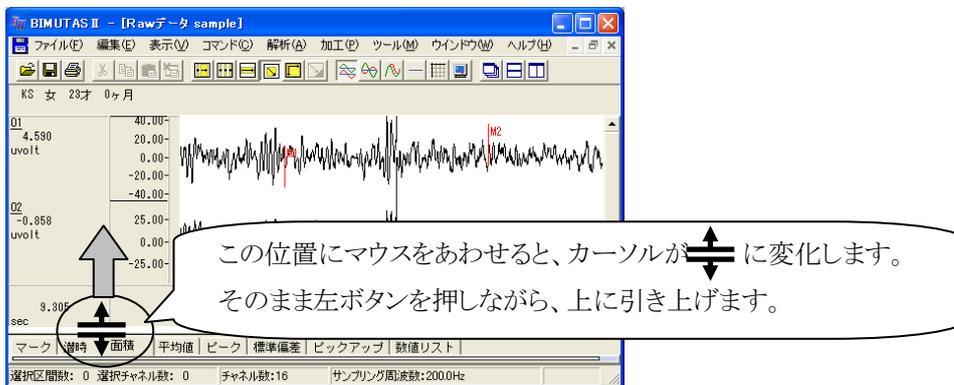
- ↓ ①タブ領域に計測データを表示させる。
- ↓ ②タブ領域を広げ、タブ内のデータを見えるようにする。
- ↓ ③「編集」メニューの「タブ情報」で「全て選択」を選ぶ。
- ↓ ④「編集」メニューの「タブ情報」で「コピー」を選ぶ。
- ⑤任意のテキストツールを起動して、「ペースト(貼り付け)」を行う。

①タブ領域に計測データを表示させる。

この手順については、前項「1)計測したデータ(「コマンド」メニューによる数値を表示するには)」を御覧ください。

②タブ領域を広げ、タブ内のデータを見えるようにする。

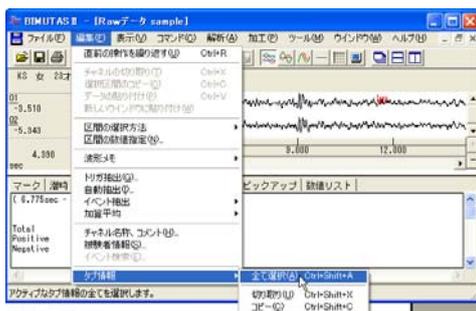
波形の下にある、タブ領域と波形領域の境目にマウスをあわせませす。その後ドラッグして上に引き上げます。



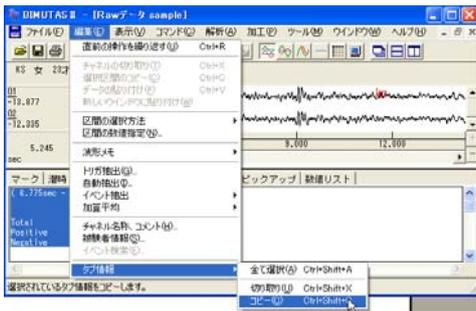
必要なタブをクリックして表示させます。



③「編集」メニューの「タブ情報」で「全て選択」を選ぶ。



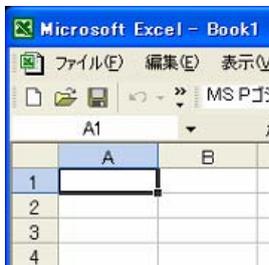
④「編集」メニューの「タブ情報」で「コピー」を選ぶ。



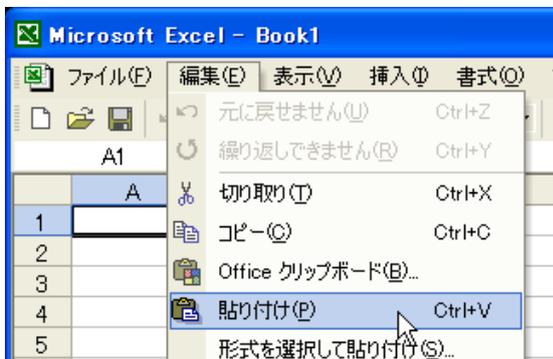
⑤任意のテキストツールを起動して、「ペースト(貼り付け)」を行う。

例: Excel に貼り付ける場合

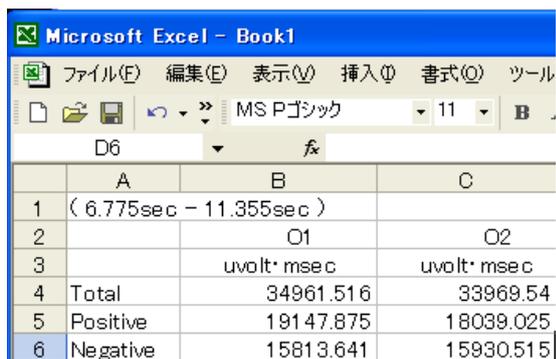
Excel を起動します。



「編集」メニューの「貼り付け」を選択します。



タブの内容が Excel シートに貼り付けられます。



3) 波形をテキスト出力するには

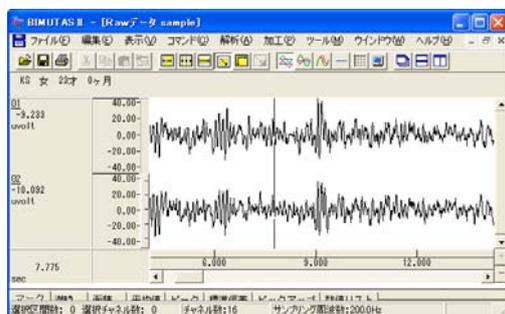
<操作の流れ>

- ↓ ①生波形または加工した波形を表示させる。
- ↓ ②「ファイル」メニューの「キッセイコムテック共通テキストファイル出力」から、出力方式を選択する。
 1. 選択範囲を使って、簡便に出力する場合
 2. バーカーソルを使って、任意の区間を出力する場合
- ③保存先を入力する。

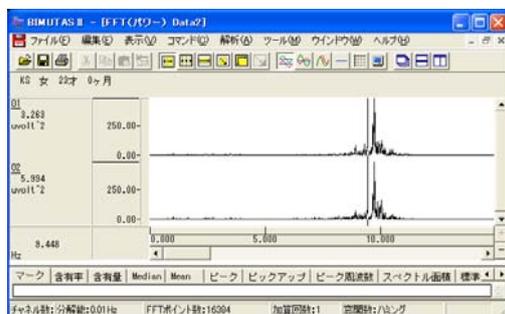
①生波形または加工した波形を表示させる。

生波形でも加工・解析した波形からでも、テキスト出力を行うことができます。

例 1: 生波形を表示した場合の画面・・・生波形 [データアイコンが青色]



例 2: 生波形から FFT を行った場合の画面・・・解析波形 [データアイコンが赤色]



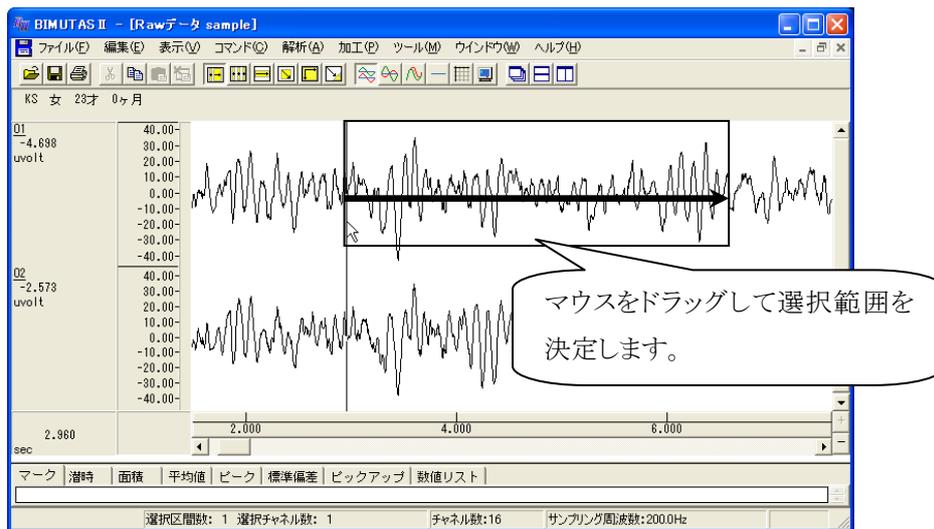
②「ファイル」メニューの「キッセイコムテック共通テキストファイル出力」から、出力方式を選択する。

1. 選択範囲を使って、簡便に出力する場合

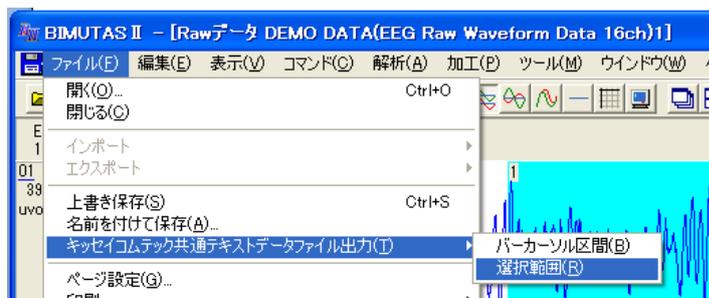
ツールバーのボタンを押し、データを選択方法を決定します。



必要な区間をマウスでドラッグして、選択範囲を設定します。



「ファイル」メニューの「キッセイコムテック共通テキストファイル出力」の「選択範囲」を選択します。

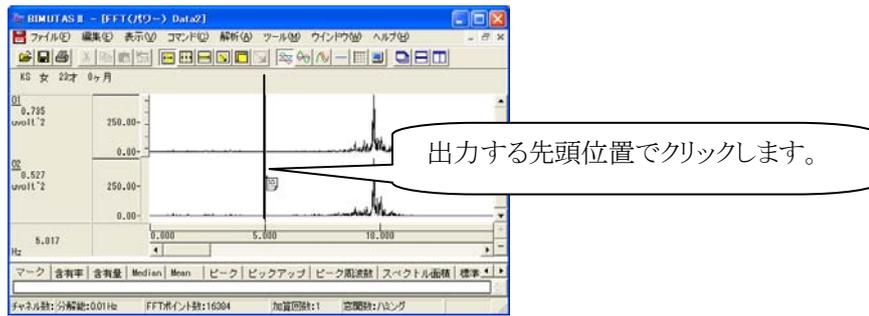


2. パーカーソルを使って、任意の区間を出力する場合

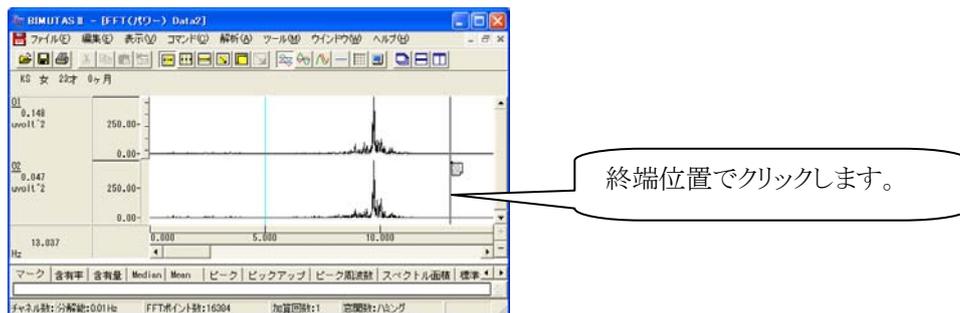
「ファイル」メニューの「キッセイコムテック共通テキストファイル出力」の「パーカーソル区間」を選択します。



テキスト出力する先頭位置で、クリックをします。



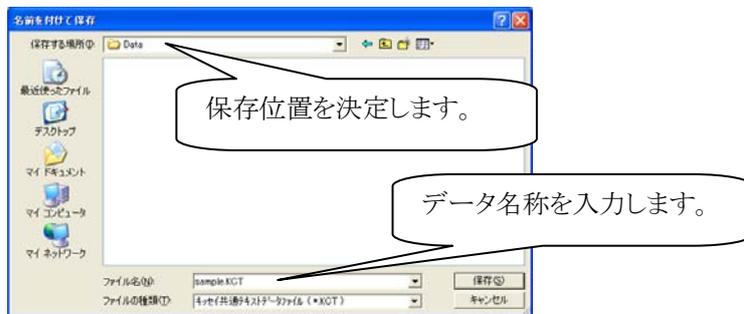
テキスト出力する終端位置で、クリックをします。



③保存先を入力する。

テキストデータを保存するダイアログが表示されます。

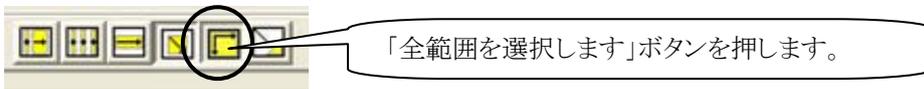
保存場所を決め、「保存」を押すとテキスト出力が完了します。



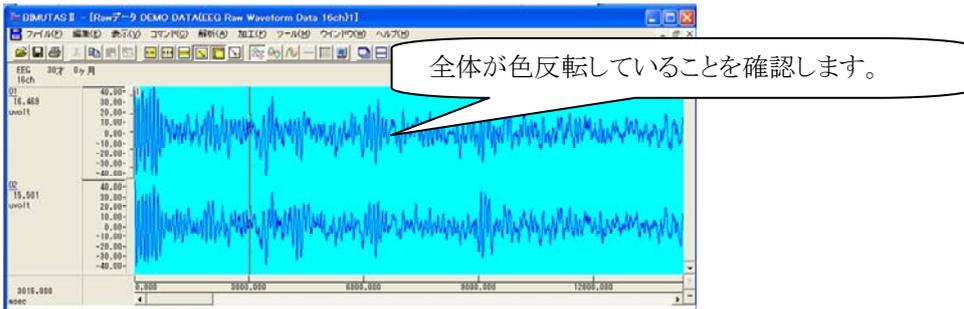
注:キッセイコムテック共通テキストファイルについて
 当社独自のヘッダ構造を持つテキストファイルです。
 フォーマットについては、「付録2 テキストファイルフォーマット」を御覧ください。

注: データ全体をテキスト出力するには

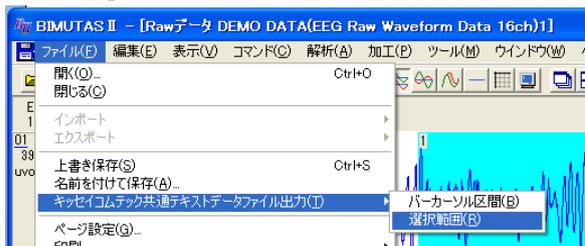
ツールバーの「」ボタンを押して、データ全体を選択します。
今まで選択されていた範囲は、自動的にクリアされます。



全体が選択されて、色反転していることを確認します。



「ファイル」メニューの「キッセイコムテック共通テキストファイル出力」の「選択範囲」を選択します。



保存位置を決めるとテキスト出力が完了します。

4) 固定幅の範囲を選択するには

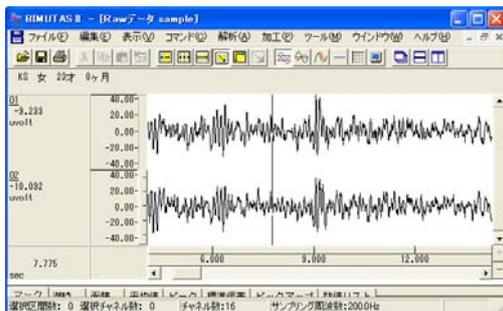
<操作の流れ>

- ↓ ①生波形または加工した波形を表示させる。
- ↓ ②「編集」メニューの「区間選択方法」-「固定幅区間の選択幅設定」を選択する。
- ↓ ③ツールバーの「固定幅区間の全チャンネル」ボタンを押す。
- ④波形上で、選択区間を設定する。

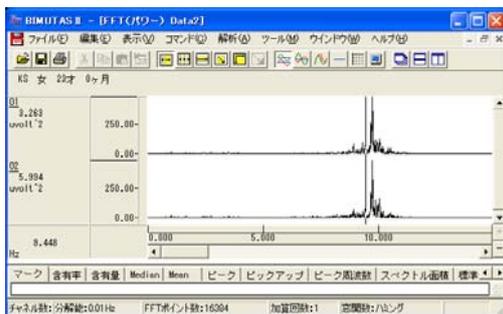
①生波形または加工した波形を表示させる。

生波形上でも加工・解析した波形上でも、固定幅選択範囲を設定することができます。

例 1: 生波形(時系列データ)を表示した場合の画面・・・生波形 [データアイコンが青色]



例 2: 生波形から FFT を行った場合の画面・・・解析波形 [データアイコンが赤色]



②「編集」メニューの「区間選択方法」-「固定幅区間の選択幅設定」を選択する。



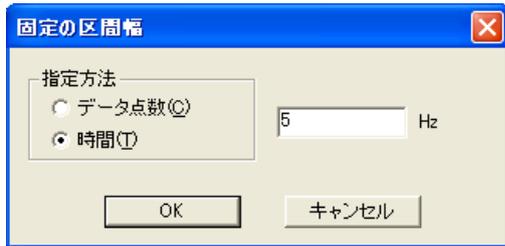
例 1:生波形(時系列データ)を表示した場合・・・生波形 [データアイコンが青色]

10sec の幅を設定



例 2:解析(FFT)を行った場合・・・解析波形 [データアイコンが赤色]

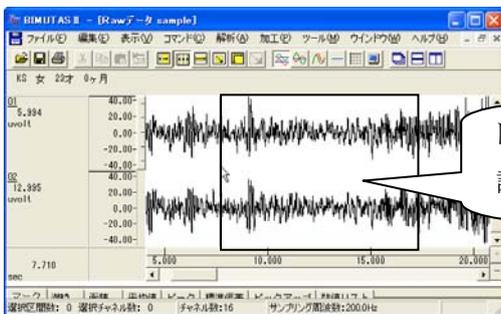
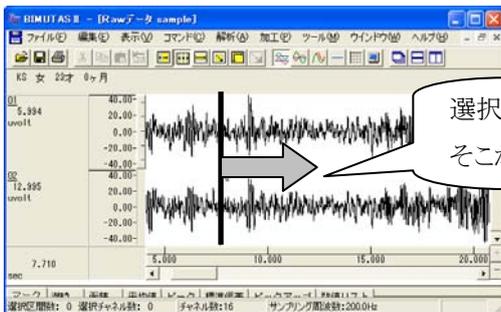
5Hz の幅を設定



③ ツールバーの「固定幅区間の全チャンネル」ボタンを押す。



④ 波形上で、選択区間を設定する。



5) 横軸単位を変更するには

<操作の流れ>

- ↓ ①「ツール」メニューの「オプション」を選択する。
- ↓ ②「軸単位」タブを開く。
- ↓ ③横軸単位を設定する。

①「ツール」メニューの「オプション」を選択する。

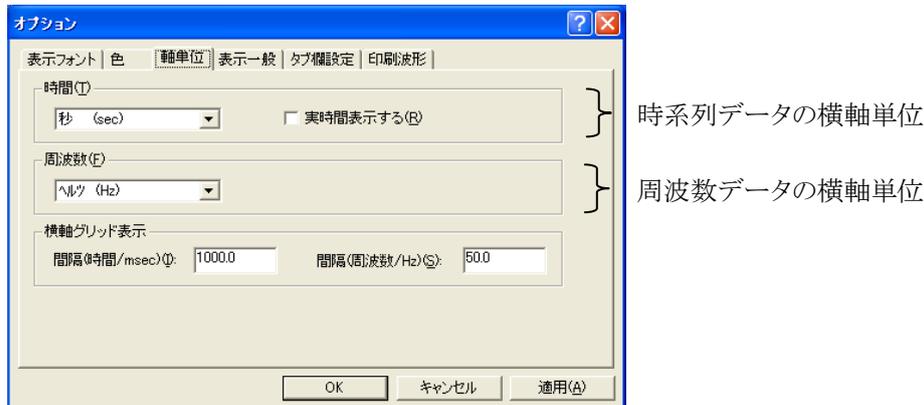
生波形または加工・解析した波形を表示し、「ツール」メニューの「オプション」を選びます。



②「軸単位」タブを開く。



③横軸単位を設定、「OK」ボタンを押すと、波形に適用されます。



注: 実時間表示(実際に収録した時間で表示)する場合

時間を「時分秒」または「HMS」とし、「実時間表示する」チェックボックスにチェックを入れてください。



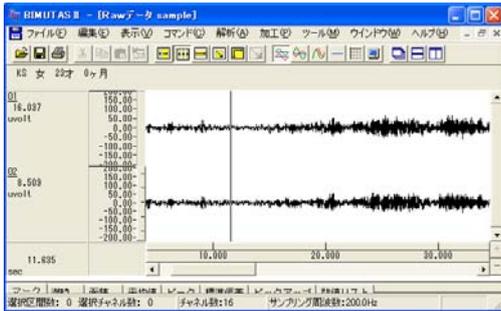
6)横軸・縦軸スケールを変更して、波形を大きく見せるには

<操作の流れ>

- ↓ ①生波形または解析波形を表示する。
- ↓ ②横軸スケールを変更する。
- ③縦軸スケールを変更する。

①生波形または解析波形を表示する。

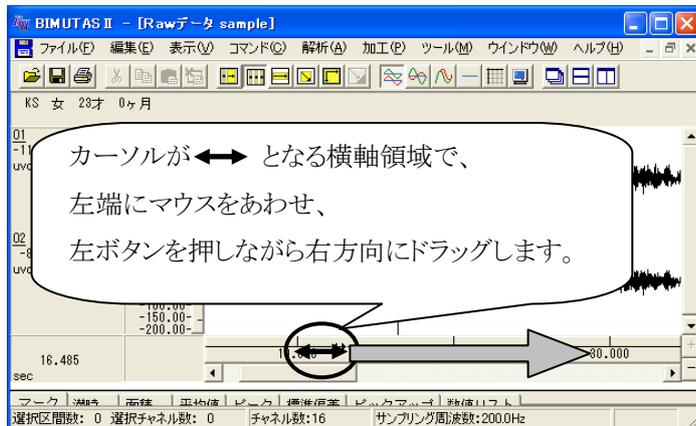
例:生波形を表示した場合



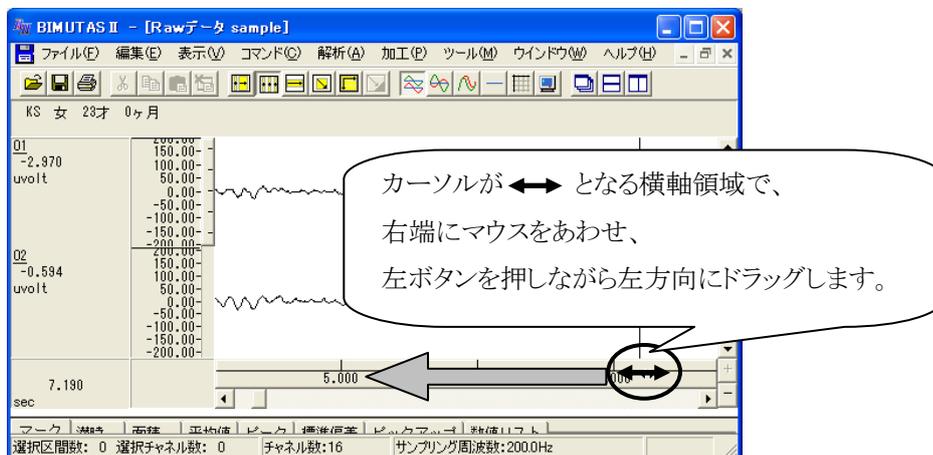
②横軸スケールを変更する。

1.波形上で設定する場合

・横軸スケールを広げる場合



・横軸スケールを縮める場合



2.メニューで設定する場合

「表示」メニューの「拡大・縮小」-「横軸数値指定」を選択します。



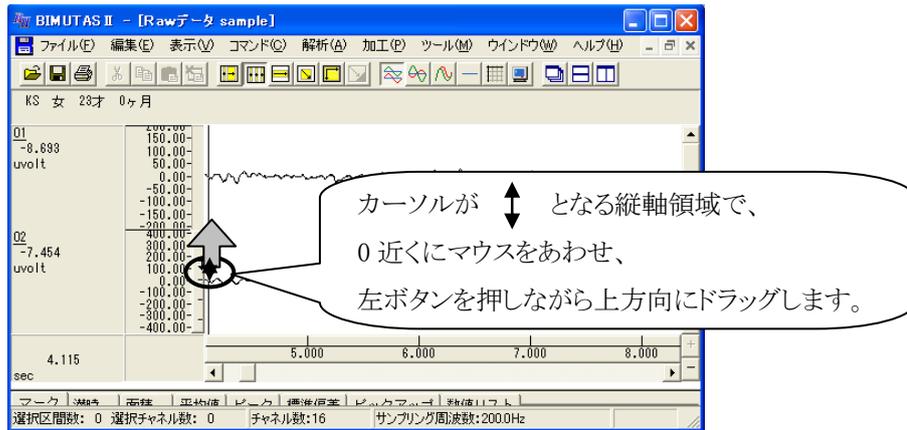
表示する範囲の数値を入力し、「OK」を押します。



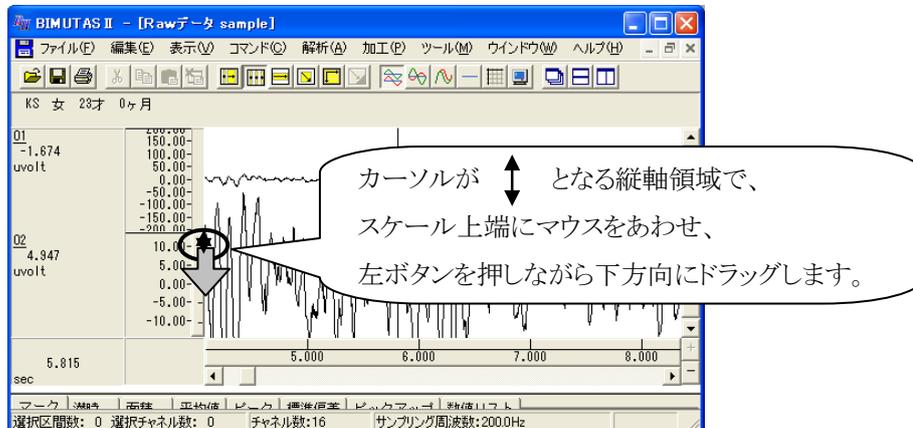
③縦軸スケールを変更する。

1.波形上で設定する場合

・縦軸スケールを広げる場合



・縦軸スケールを縮める場合



2.メニューで設定する場合

「表示」メニューの「拡大・縮小」-「縦軸数値指定」を選択します。



変更するチャンネルを選択して、縦軸数値を入力し、「OK」を押します。

「更新」を押すことで、表示の見た目を確かめることができます。

